

評価結果公表票

作成日 平成20年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	270201783
法人名	有限会社三共システム
事業所名	三共グリーンホーム
所在地	弘前市大字泉野2-8-6 (電 話) 0172-89-3553
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年11月20日

【情報提供票より】(平成19年9月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年6月29日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 12人, 非常勤 1人, 常勤換算	6.3人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	2 階建ての	～ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	理美容代1,500円/回ほか 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,300 円

(4)利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	2	名	要介護2	6	名
要介護3	6	名	要介護4	2	名
要介護5	1	名	要支援2	0	名
年齢	平均	78.1 歳	最低	67 歳	最高 89 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小堀クリニック、竹沢歯科クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「人としての尊厳を守りつつ愛情を持って明るい日常を支援することを目的とする」という理念を掲げており、毎日の朝礼で唱和する等、職員間での共有を図り、理念の実現に向けて日々取り組んでいる。
近隣との日常的な交流が図られており、町会長や民生委員始め、小学生や近隣住民が来訪する等の関係が築かれている。また、手踊りの先生が週1回来訪したり、運営推進会議のメンバーの出席率が80パーセントを超えるなど、地域と十分に関わりのあるケアを提供している。
職員は利用者一人ひとりの生活歴や力量、意向等を把握しており、畑作り等の得意分野は利用者と一緒にいたり、個々の言動やプライバシーを尊重した対応を行うよう心がけている。
運営者始め全職員は身体拘束の内容等について理解しており、拘束の無いケアを提供するよう努めている。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合は、家族から同意書をもらうとともに、理由や方法、期間、経過観察等を記録に残す体制が整えられている。

【特に改善が求められる点】

ホーム独自の理念を掲げ、その実践に努めているが、全職員で再検討を行うなど、現在の理念に地域密着型サービスの役割等を盛り込むことに期待したい。
全職員が虐待について理解を深められるよう、外部研修に派遣したり、内部研修のテーマとして取り上げる等の取り組みに期待したい。また、これまでの研修傾向等を把握し、内部・外部研修の年間計画を作成し、ホーム一丸となって職員の質の向上に努めていってはどうか。
近隣との良い関係が作られているので、今後は利用者の無断外出時に備えた協力体制を整えていくことに期待したい。
災害時に備えて日中と夜間を想定した避難訓練を行う等の取り組みは行っているが、数日分の食料や飲料水、簡易トイレ、寒さ対策用品などを準備しておくことにも期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を受けて、利用者が年1回の定期健康診断を受診できる体制を整備したり、利用者同士のトラブル発生時は原因から対応までを記録する仕組みを整える等、より良いホーム作りに向けた取り組みが行われている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価のねらい等は全職員に理解されており、自己評価を実施する際には職員全員で評価項目を確認した上で、職員一人ひとりが記入する方法を取っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、メンバーが参加しやすい時間帯を考慮して開催されており、出席率は高い。会議では地域との交流やホームの現状、評価結果等を報告しており、委員から出された意見は今後のケアサービスの質の向上に反映させている。また、町内会の方にもメンバーとなってもらっていることがきっかけとなり、災害時における町内会からの協力体制を整備する等の取り組みにつながっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	ホーム便りや電話、面会時等を利用して、日々の暮らしぶりや健康状態、職員の異動等について家族に報告している。また、家族が意見等を話しやすいようホーム内外の苦情受付窓口を契約時の文書に明示したり、苦情受付箱を玄関に設置する等の取り組みを行っており、家族から意見等が出された時は今後のケアに活かすよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に参加する等、地域との交流を図っており、近隣の住民や小学生などが立ち寄ったり、ホーム前庭の畑に育ったイチゴをもらいに立ち寄る等の関係が築かれている。また、週1回踊りの先生がボランティアで手踊りを教えにきたり、見学の希望があれば随時受け入れる等、利用者のプライバシーに十分配慮した上で外部の方を受け入れている。

【各領域の取組状況】

領 域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	管理者及び職員は、地域密着型サービスの役割等を理解しており、利用者が地域の中で家庭的な雰囲気を保ちながら生活できるよう支援している。 管理者は地域福祉権利擁護事業等に関する外部研修に参加するとともに、伝達講習としてその内容を全職員に周知しており、職員は制度の概要を理解している。 運営者は、職員の異動が利用者に与える影響を十分に理解した上で、職員育成の意味も含めて年1回の異動を行っている。異動を行う時は利用者への十分な説明や、新しい職員への引継ぎを行っている。
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	利用前にはホームを見学してもらうとともに十分な話し合いを行い、利用者及び家族の意向に添ったサービスを提供できるよう努めている。 職員は、日々のケアを通して一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、畑作り等の利用者の得意分野は一緒に行うなど、利用者と職員が助けあひながら暮らしている。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	利用者及び家族等の意向にそったケアを提供できるよう、介護計画作成時には利用者や家族から聞きとりを行うほか、職員間での話し合いを行い、それらを計画に反映させるよう努めている。 これまでの受療状況を把握し、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、急変時等、いつでも対応してもらえる協力医療機関を確保したり、重度化や終末期のケアの方針を明確にし、利用者や家族、主治医と意思統一を図りながら対応する仕組みを整えている。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	利用者がその人らしい暮らしを継続できるよう、一人ひとりのプライバシー確保の徹底に努め、利用者優先のケアサービスを提供するよう心がけている。 栄養士の資格を持った職員がおり、栄養バランス等に配慮された献立を作成したり、食事に関する相談が日常的にできる体制となっている。また、職員も一緒に食事を摂ったり、食事中は音楽を流す等、和やかな雰囲気の中で食事を楽しめるような配慮が行われている。 共用空間には家庭的な調度品を設置したり、居室に入居前から使用していたものを持ち込んでもらう等、利用者が落ち着いて過ごせるような空間作りが行われている。

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解している。ホーム独自の理念を掲げているが、開設当初からのものであり、地域密着型サービスの役割等を盛り込んだものにはなっていない。	○	地域密着型サービスになったことから、今一度全職員で理念を再検討し、地域密着型サービスの役割等を盛り込むことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、毎日の朝礼で理念を唱和して共有を図り、日々のケアに反映させるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に参加する等、地域との交流を図っており、近隣の住民や小学生などが立ち寄ったり、ホーム前庭の畑に育ったイチゴをもらいに立ち寄る等の関係が築かれている。また、週1回踊りの先生がボランティアで手踊りを教えに来たり、見学の希望があれば随時受付ける等、利用者のプライバシーに十分配慮した上で外部の方を受け入れている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいや活用方法等は全職員に理解されており、自己評価は職員一人ひとりに取り組んでもらっている。また、前回の評価で助言をもらった事項については職員全員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、メンバーが集まりやすい時間に会議を開催しているため、出席率が高い。会議では、地域との交流やホームの現状、自己・外部評価の結果等を報告しており、メンバーから積極的に意見を出してもらい、今後のケアサービスの質の向上につなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回ホーム便りを配布するほか、必要に応じて相談する等、行政との連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関する研修に参加し、全職員への伝達講習を行っているため、職員は概要を理解している。また、必要に応じて制度利用につなげる支援を行う体制が整えられている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、ニュースなどの事例を基に職員に注意を促したり、職員のケアの状況を常に観察する等、虐待を未然に防ぐよう努めている。虐待を発見した場合は管理者に口頭で報告する等の仕組みとなっているが、全職員が虐待について理解を深める取り組みは行われていない。	○	外部研修に職員を派遣したり、内部研修のテーマとして取り上げる等、全職員が虐待に関する理解を深めることに期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ホームの理念やケアの方針、取り組み等を利用者や家族に説明し、疑問や意見を引き出すための面談等を行っている。また、契約改訂時も説明して同意を得ている。退居時には担当ケアマネジャーが同席して話し合いを行い、同意を得ており、利用者や家族の不安を生じさせないよう退居先の情報提供を行う等の支援も行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは定期的にホーム便りや電話等で報告し、健康状態や受診状況、職員の異動等は随時家族に報告している。金銭管理状況は個人ごとに収納帳を作成して管理しており、領収書を添付して定期的に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は家族等が意見や要望などを話しやすい雰囲気作りを心がけるほか、ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書に明示したり、苦情受付箱を玄関ホールに設置し、面会時等に家族に周知している。家族等から意見等が出された時は今後のケアに活かすよう努めている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動が利用者にも与える影響を十分理解した上で、職員育成の意味も含めて年1回程度の異動を行っている。異動を行う際には利用者にも十分説明するとともに、新しく担当する職員への引継ぎも十分に行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の業務上の悩みについては管理者が助言している。運営者は、職員の質の確保・向上に向けた取り組みの必要性を認識しており、外部研修には同じ人だけが出ないよう配慮したり、受講の際は利用者へのケアに支障をきたさないよう勤務体制を考慮する等の対応を行っている。外部研修受講後は報告書を作成し、月1回の会議で伝達研修を行う等の取り組みを行っているが、年間の研修計画を作成するまでには至っていない。	○	これまでの研修傾向や職員の力量・希望を把握した上で、内部・外部研修の年間計画を作成し、より計画的に職員の更なるレベルアップにつなげることに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や連携を深めるために、県グループホーム協会に加入して情報収集や情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にはホームを見学してもらうとともに十分な話し合いを行い、利用者及び家族の意向に添ったサービスを提供できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日々のケアを通して一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、畑作り等の利用者の得意分野は一緒に行うなど、利用者と職員が助けあいながら暮らしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々の関わりから一人ひとりの希望や意向を把握するよう努めている。また、利用者の意向等が十分に把握できない場合は、職員間で話し合いを行ったり、家族や関係者から情報を収集する等の取り組みを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、利用者や家族の意向を把握するとともに、会議で職員の意見や気づきを話し合っており、個別具体的な計画となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、期間終了後の見直しや、利用者の状態等が変化した際の随時の見直しを行っている。見直しの時には、家族等の意向を聞いたり、職員間で話し合いを行う等の再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診時の送迎を行う等、利用者や家族の要望に応じた柔軟な対応を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、協力医療機関を確保しており、急変時等いつでも相談できる体制となっている。受審結果は家族に報告しており、共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応について事業所としての方針を明確にしており、利用者や家族の希望、主治医の意見を聞き、意思統一を図りながら対応する仕組みとなっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定したり拒否することなく、失禁等があった時は個室で対応する等、一人ひとりの羞恥心やプライバシーに配慮している。また、利用者の意向や家族からの情報を基に呼びかけ方を決めており、全職員で統一した声かけを行っている。職員は個人情報保護法について概ね理解しており、利用者の個人情報は他の利用者や訪問者の目につかない所に置くなどの対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、利用者の訴えを大切にしたいケアを提供するよう努めている。また、一人ひとりのペースやその日の希望、身体状況等に合わせた柔軟な対応を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望や好み等を取り入れて作成している。また、利用者と職員と一緒に下ごしらえや後片付けを行うほか、職員も一緒に食事を摂ったり、食事中は音楽を流す等、食事を楽しめるような配慮が行われている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの入浴習慣や好みを把握した上で支援しており、入浴の際は同性介護や個別入浴を取り入れるなど、利用者の羞恥心等に配慮した対応を行っている。入浴を拒否する利用者に対しては時間をずらす等の工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や希望等が活かせるよう、畑作りや漬物作り等の得意なことは役割として行ってもらっている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の楽しみや気分転換等につながるよう、2週間に1回程度の外出や、受診にあわせた外出支援を行っている。外出先には利用者の希望を取り入れるほか、利用者の身体状況等に配慮した移動方法を取る等の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は、身体拘束の内容やその弊害について理解しており、拘束は行わないケアを行っている。また、やむを得ずベッド柵を設置しなければならない場合は、家族から同意書をもらうとともに、理由や方法、期間、経過観察等を個別記録に残す体制となっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室等は施錠しておらず、2階の階段口は転落等の事故防止のため、家族等の了解を得た上で施錠している。利用者の外出傾向を察知できるよう見守りを行っており、察知したときには職員が付き添う等の支援を行っているが、無断外出に備えて近隣からの協力体制を整えるまでには至っていない。	○	利用者の無断外出時に近隣からの協力が得られるよう、運営推進会議の場を活用するなど、一人ひとりの個人情報に配慮しながら協力体制を整えることに期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中と夜間を想定した避難訓練を1回ずつ実施している。その際は、利用者と職員が一緒に行っている。災害時に備えて町内会からの協力体制を整えているが、食料や飲料水等の備蓄品は用意されていない。	○	災害時に備えて、数日分の食料や飲料水、簡易トイレ、寒さをしのげる物品等を用意してはどうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持った職員が献立を作成しており、栄養バランスや1日の総摂取カロリーに配慮されたものとなっている。また、食事とおやつの時間に積極的に水分を摂取してもらっており、食事や水分の摂取量は記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応のマニュアルが作成されており、必要に応じて見直しを行っている。また、職員会議等を通じてマニュアルに基づいた学習会を行っている。保健所等との連携を図り、最新情報の収集に努めるほか、家族への情報提供も行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品等、家庭的な雰囲気が保てるよう配慮している。また、季節感のある装飾品を飾る等の工夫も行われている。職員がたてる物音や声は騒がしくなく、テレビや音楽等の音量は適切である。また、日差しや照明等の室内の明るさも適当であり、居心地のよい空間となっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた物を持ってきてもらうよう家族等に積極的に働きかけており、一人ひとりの個性のある居室となっている。		

※ は、重点項目。